

昭和2年 韓国の絵はがき

絵はがきから見る都市の変貌

絵はがきは、1870年頃ドイツで発案され、日本への渡来は明治20年代であるとされる。ドイツの官製はがきは兵士と大砲を印刷したものが最初です。わが国では、1902年6月万国郵便連盟加盟25年を記念して通信省から発行された。当時は、庶民にとって身近なものとなっていたが、重要な意味がなかった。日露戦争（1904～05）が勃発すると、士気を高揚するため、通信省は、「戦役記念」絵葉書を次々に発行して、空前の絵はがきブームをおこした。

絵はがきは、その時代の世相や風俗などを知る上で重要な歴史的資料です。当時（1900年代）は、新聞が主なメディア媒介であったが、絵はがきは新聞より身近で、速報性があったという。

今回は、貴重な絵はがき百五十数枚の分散・消滅を恐れ、また、子ども達への「未来へのメッセージ」として「昭和2年韓国の絵はがき」を電子媒体として閲覧できるようにしました。

――一部百科事典マイペディアなどのインターネット情報を引用――

参考「絵はがき100年：近代日本のビジュアル・メディア」（橋爪紳也著（朝日選書 2006年））

大塚総一郎氏が昭和2年に韓国の鉄道視察をおこなったとき、彼が購入した「旅行案内」、「パンフレット」と共に「絵はがき」が多数見つかった（本文63頁）。当時は、ハルビン、大連、^{ちょうしゆん}長^{ぶじゆん}春、撫順などの各都市は日本が統治していたので、絵はがきの見だしは日本語と英語で書かれてあった。

パンフレットは鉄道路線案内や旅行案内ならびに国勢報告であった（表1）。また、絵はがきは総数157枚で、いずれも各都市の生活や文化などを反映していた。そのため、当該はがきの取り扱うテーマが多彩であったが、「名所・旧跡」、「景観」などの項目を設け、分類・編集して、電子化することにした（写真2）。

表1： 昭和2年に購入した刊行物

表2： 昭和2年における各都市の絵はがきの種類と枚数

書名	発行者または所	発行年度	目次
釜山	間城香陽 （（株）釜山日報社内）	大正15年10月25日	釜山の開港、概要、人口、財政、教育、貿易、商業、金融、工業、水産、港湾、鉄道、開運、衛生、社会事業、倉庫、保険、市場、市街、通信、社寺、名勝、官公署、会社銀行、新聞社、大釜山の歌。
京城	朝鮮総督府鉄道局	昭和2年度版	京城（昔の京城、今の京城、市内見物、郊外見物）、仁川、水産、咸鏡、開城、京城付近の温泉。
朝鮮雑記	朝鮮総督府	大正15年11月15日	朝鮮の字義、朝鮮の異名、往昔の日鮮関係、元寇の遺物、板屋雨聲多、朝鮮松原、亀甲船、眼鏡、玄菟景徳、炭の豊凶など多数。
朝鮮旅行案内	不明	不明	鉄道路線案内（京釜線、湖南線、京元線、京義線、咸鏡線など）。
平城案内 その付近	朝鮮総督府鉄道局	昭和2年2月	平城（昔の平城、今の平城）、平城近郊（船橋里、寺洞炭鉱、勝湖里、江東鍾乳窟、渠浪古城）

都市	枚数	名所・旧跡	景観	公共施設	文化・芸術	産業	交通・運輸	市街	職業	住宅	軍艦	記念碑	会見	合計
ハルビン	10	1	1				4	4						10
大連	20	5	2	2			4	7						20
仁川	24	11	6	1			6							24
平城	9	2	5					2						9
京城	16			12		3		1						16
釜山	5	1	1	1			1	1						5
長春	3	1		1			1							3
奉天	8	6					1	1						8
撫順	28	3		5		12	2	3		2	1			28
旅順	27	1									20	5	1	27
不明	7	3			3				1					7
合計	157	34	15	22	3	15	19	19	1	2	21	5	1	157

資料提供者：大塚輝一郎氏（つくば市北条）

資料複写およびまとめ：御供文範・木村 滋